

## 浜田市三隅町 大麻山神社庭園と石ごうろ

庭園文化研究分科会 原 裕二

### 1. 大麻山 石ごうろの存在

現地調査の際、大麻山神社庭園の庭石は、どこから持ってきたのだろうかという話になった。石は丸みを帯びて非常になめらかであったので、私は「きっと日本海岸から苦労して運んだのでしょう。」などと安易に答えていた。

しかしその後、神社の宮司さんから「ほとんど近辺にある石を使っている。」と聞き、自らの不明を恥じることになる。同時に、大麻山には「石郷路(いしごうろ)」なるものがあり、以前、島根県地学会で報告されていたことを思い出した。大麻山神社や庭園で使われている石は、石ごうろにあるものと同じである。

よって、周辺の地質を紹介した後、大麻山神社と庭園で使用されている石造物について考察してみたい。

### 2. 室谷周辺の巨石と石ごうろ

ここで言う石ごうろとは、「岩塊流(がんかいりゅう)」のことである。

地学事典に依ると、「岩塊流」とは斜面の上方から供給された大量の岩塊や礫が原地形の谷を埋めて作った地形である。

同じようなことばに「岩海(がんかい)」という用語があるが、これは森林限界上の山頂などで、その場所で生産された大型の角礫が累々と堆積している景観のことを言う。岩が移動したかどうかの違いである。

岩塊流や岩海ともに中国地方では各所で知られている。その多くは石英閃緑岩あるいは花崗閃緑岩から成る。石英が多くて風化に比較的強い岩石が、節理間隔の大きい岩盤斜面を形成する場合、巨石となって下方に落下し集積しやすいとされている ((一)日本応用地質学会中国四国支部, 2010)。

大麻山周辺では、大小 6 箇所(箇所)の石ごうろが認められている(図 1)(井上, 2002、加藤, 2013、桑田, 2003)。そのうち最も見学しやすい箇所が曾根石ごうろである。



写真-1 曾根石ごうろ



写真-2 曾根石ごうろの上方斜面

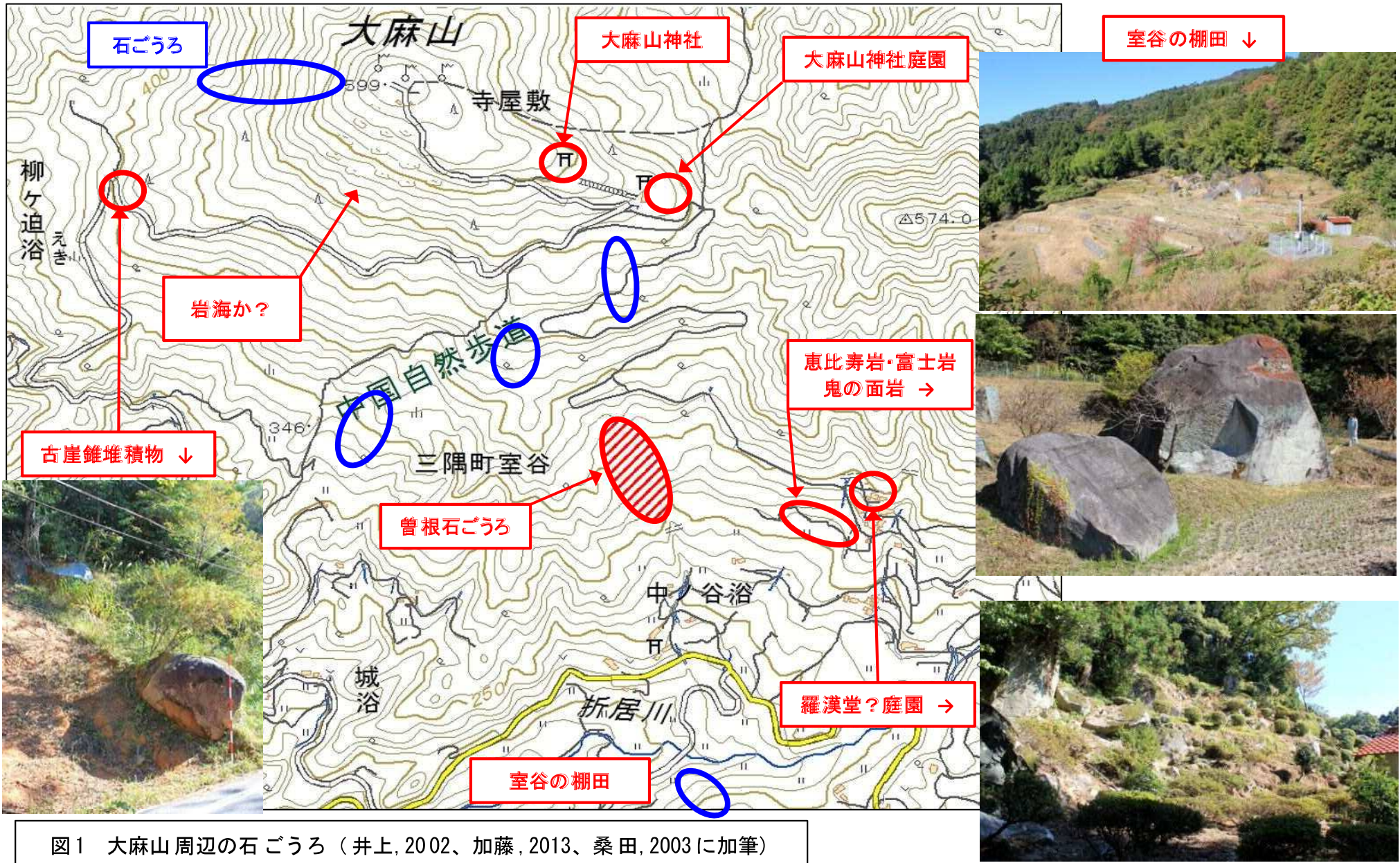


図1 大麻山周辺の石ごうろ (井上, 2002、加藤, 2013、桑田, 2003に加筆)

斜面に直径1~7mほどの非常に硬質な岩塊が重なり合い、岩石はすべて石英閃緑岩である。水の流れていない小型の「鬼の舌震い」を連想させる。岩塊と岩塊の間は空隙となっており、細粒物質はほとんど見られない(写真-1)。

一方で、その上方斜面では、岩塊と砂、粘土が混在する(写真-2)。細粒分が水によって流れ去る前の石ごうろの原形を見ることができる。

大麻山では斜面崩壊が多く発生しており、巨石の供給には事欠かない。

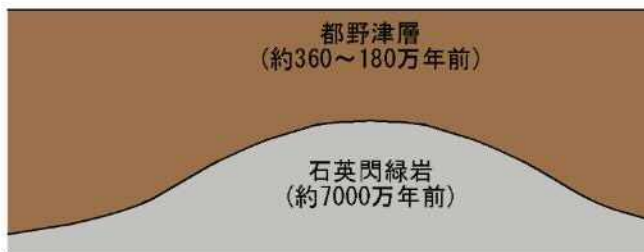
室谷地区の山地と耕地の境界付近では、石ごうろだけでなく、山から落ちてきた巨石や岩塊、古崖錐堆積物の露頭、巨石をうまく利用した庭園や石垣などが随所に残っている(図1)。

ところで、大麻山の石ごうろはどのようにしてできたか？

井上(2002)では次のような説明がされている。

約7000万年前に石英閃緑岩岩体が形成→約170万年前までに都野津層が堆積→大麻山の急激な隆起→岩塊を含んだ土砂の崩落(古崖錐堆積物)→崩積土の谷への集積→水によって細粒物質が流出→石ごうろの形成

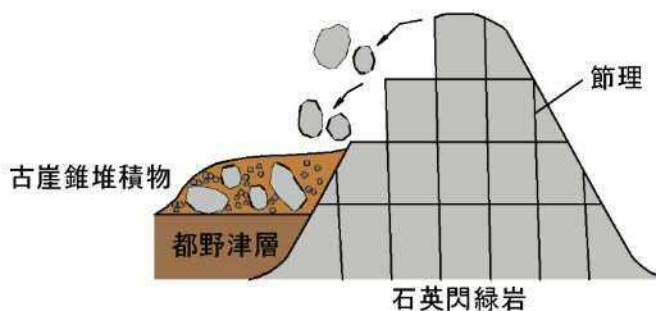
### 1. 地層の形成



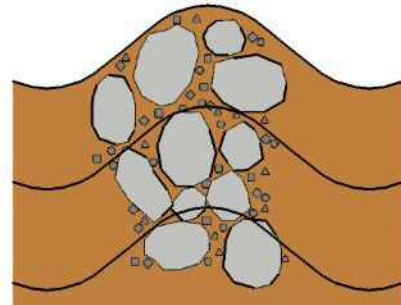
### 2. 大麻山の急激な隆起



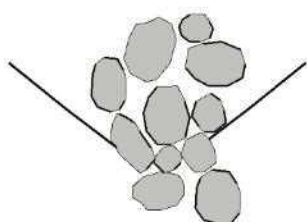
### 3. 岩塊を含んだ土砂の崩落(古崖錐堆積物)



### 4. 古崖錐堆積物が崩壊によって谷へ集積



### 5. 水によって細粒分が流出し石ごうろが形成



### 3. 大麻山神社庭園の石組み

大麻山の歴史を簡単に記す。

708～888年(天平～貞観)：僧が住み、尊勝陀羅尼を唱え里人を教化。

888年(仁和4年)：阿波国板野の権現大麻彦命の大麻が懸かる(神託)。

889年(寛平元年)：大麻彦命、猿田彦命、天日鷲命、蔵王権現を勧請。

山号を大麻山とし、社殿を建立。

947年(天曆3年)：尊勝寺を建立。真言宗。本尊は十一面観音。

969年(安和2年)：熊野権現、走湯権現、山王権現、白山権現を勧請。

山腹には神社仏閣が取り巻いていた。

1523年(大永3年)：尼子・大内の戦いで焼失。その後再建。

1535年(天文3年)：火災で焼失。その後再建。

1673～1681年(延宝年間)：尊勝寺書院の庭園を現在地に築庭。(重森完途, 1979)

1836年(天保7年)：長雨による大山崩れで崩壊。

1844年(天保15年)：大麻山神社を再建。尊勝寺は庫裏のみ再建。

1872年(明治5年)：浜田沖地震で崩壊。その後神社だけ再建。

2006年(平成18年)：大鳥居修復及び参道造営

大麻山神社庭園はもともと尊勝寺書院の庭園として築庭され、現在は社務所書院の庭となっている。浜田沖地震の後も、代々の宮司によって補修・維持管理され、現在に至るまで手が入れられている。

重森完途氏が訪れた当時と趣はやや異なるが、三尊石組や蓬莱石、築山の植栽などはあまり変わっていない。むしろ現在の方が手入れの行き届いている分、すっきりとしたさわやかな印象を与える(写真-3, 4)。

庭石はすべて大麻山の石英閃緑岩である。庭園上方の斜面には、石ごうろで見たような、石組みに使いそうな岩塊が多数認められる(写真-5)。駐車場付近には尊勝寺の礎石の一部や石垣が残り、往時の隆盛を伺い知ることができる(写真-6)。



写真-3 枯山水庭園の三尊石組



写真-4 巨大な飛石



写真-5 庭園上方斜面の転石



写真-6 尊勝寺跡の石垣

#### 4. 大麻山神社の石造物

大麻山神社は由緒ある歴史を持ち、荘厳で格式の高い神社である。

中でも使用されている石材が特徴的である。道中石 14 基(元禄 13 年建立・赤御影石)や宝篋印塔(ほうきょういんとう・享和 3 年 3 月-1803・尾道石工寺田平左衛門)、駐車場にある石碑(紀元 2595 年-昭和 10 年-1935)などがあるが、ここでは参道周辺に限って紹介したい(写真-7~13)。

以下は現地調査の結果を基に記述するが、判読不能な箇所は永井・齋藤(2014)を参考にした。

神社参道の一番下にある鳥居は、元文 3 年(1738)九月吉日となっており、白色の花崗閃緑岩に見える。尾道石工の河崎氏兼久作だが、石材の産地は不明である。花崗岩製の石造物としては、前述の宝篋印塔や手水鉢(元文 4 年-1739)がある。

この鳥居から中腹部の木造鳥居までの石段は、大麻山石英閃緑岩から成る。もともとあった石段を平成 18 年に改修した可能性がある。

中腹にある木造鳥居は平成 18 年に修復された。最初の建立年代は不明である。

木造鳥居から上は、福光石製の石段となる。鳥居修復時に敷設されたと思われる、まだ新しく美しい。きれいに苔むしているので、歩く際は転倒に要注意である。

参道の脇には、花崗岩製の灯籠(文化 14 年(1817)三月吉日)が 1 対ある。産地や作者は不明だが、カリ長石が目立つ赤色の花崗岩であるので、尾道石工の作かと推測される。

境内には福光石の灯籠が見られる。文化 6 年(1809)や弘化 4 年(1847)の年号がある。作者は、大田市温泉津の坪内一門である可能性が高い。

また境内に、来待石製の狛犬が存在する。狛犬自体は昭和 12 年(1937)12 月 5 日製作であるが、台座には天保 15 年(1844)正月吉日とある。同じ来待石に見えるが、山口県江崎の凝灰質砂岩であるかもしれない(永井・齋藤, 2014)。

これらの石造物は、いずれも江戸時代末期のものが多く、明治以降は格段に少なくなる。このことは、明治維新以降の社会情勢の変化、たとえば廃藩置県や廃仏毀釈、あるいは浜田沖地震等の災害の影響を暗示させて、非常に感慨深い。



写真-7 神社参道の鳥居(1738年)

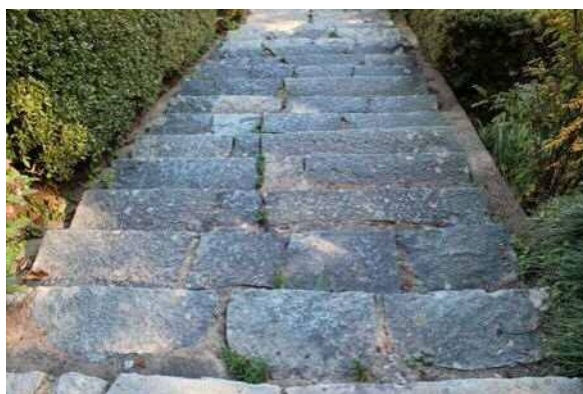


写真-8 石英閃緑岩の石段



写真-9 木造の鳥居(2006年)修復



写真-10 福光石の石段



←写真-11  
赤色花崗岩の  
灯籠(1817年)

写真-12 →  
福光石の灯籠  
(1809年)



写真-13 →  
来待石の狛犬(1937年)  
台座は1844年。



## 5. まとめ

使用されている石材の特徴から島根県の庭園を大きく分類すると、

- ・ 出雲流庭園                      ----> 花崗岩類
- ・ 寺院の庭園(出雲地方)       ----> 来待石
- ・ 大田市周辺の庭園           ----> 福光石
- ・ 石見の庭園                   ----> 三郡変成岩の片岩

となる。

片岩を使用した庭園が多い石見地方にあって、大麻山神社庭園はこの周辺だけでとれる花崗岩類が豊富に用いられており、特異な存在であると言える。

今まで述べたように、大麻山周辺には豊かな自然と歴史的な建造物がたくさん残されている。大麻山神社と庭園だけでなく、室谷の棚田、龍雲寺、太平桜、三隅公園のツツジ、梅林など見どころが多い。

若葉の頃には、また違った風景が楽しめると思われる。ぜひ一度足を運んでみるようお勧めしたい。

## 6. 参考文献

- 一般社団法人日本応用地質学会中国四国支部(2010)：中国四国地方の応用地質学，高浜印刷，61-63.
- 井上多津男(2002)：大麻山の隆起—都野津層と岩塊流，島根県地学会会誌(第17号)，23-27.
- 加藤芳郎(2013)：島根の大地みどころガイド，島根地質百選編集委員会，今井印刷，202-203.
- 桑田龍三(2003)：大麻山の岩海（いしごうろ），島根県地学会会誌(第18号)，47-52.
- 重森完途（1979）：探訪日本の庭2山陰，相賀徹夫編集著作，小学館，28，158.
- 地団研地学事典編集委員会(1970)：地学事典，平凡社，227-228.
- 永井泰・齋藤正(2014)：島根の石造物データ，報光社，132-133, 159-160, 182-183.

7. 付録：龍雲寺(浜田市三隅町三隅)と小川庭園(江津市和木町)の写真



曹洞宗 海藏山 龍雲寺



龍雲寺 山門



龍雲寺 庭園



龍雲寺 庭園



龍雲寺 襖絵 寒山拾得



なぜか西洋風の石仏



小川庭園(伝 雪舟作)



小川庭園 欄間